東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリーテーマ

ロータリーを
実践し
みんなに
豊かな人生を

Vol.47　第2272回例会　2013.7.25

今年度会長テーマ　話と和で輪を広げ　ロータリーをもっと身近に

■司会：
北久保例会運営委員

■点鐘：野村会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：
野澤会員

■お客様紹介：
中丸直前会長

◆ゲスト：
多摩分区ガバナー補佐
東京福生ＲＣ
橋本恵治様

◆ゲスト：
多摩分区分区幹事
東京福生中央ＲＣ
斉藤富美男様

◆ゲスト：
地区補助金委員会委員
東京東大和ＲＣ
守重勝弘様

◆ゲスト：
東京東大和ＲＣ
本荘修様

■会長報告　野村会長

皆さんこんにちは　本日は橋本ガバナー補佐、斉藤分区幹事、守重地区補助金委員、本荘様そして、当クラブからでました、Ｒ財団奨学生広澤智紀君ようこそお越し下さいました。橋本様は、広澤君を補助金を利用した、財団奨学生として送り出して下さった当時の選考委員責任者です。その後任として守重さんが、今日は広澤君の発表を聞きにガバナー事務所より依頼され本日お越しになっています。広澤君は、何とかケンブリッジ大学で勉強したいと言う事で、奨学金を出してもらえる団体をいろいろ探して、自宅狭山に近い当ＲＣに辿り着いたと聞いています。専攻はナチュラルサイエンスと言う事で、物理・数学だそうです。私のような、文系の人間には全く縁のない世界です。今日は「一年間を振り返って」というテーマで卓話をして戴きますので、よろしく御願いいたします。今年の1月末に宿泊業の関係で、ドイツのベルリンとフランクフルトに東京都のシティーセールスに同行しました。その

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／田中　重義
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

際ベルリンで通訳として、我々のブースに付いてくれた女性の通訳が、私の胸に付いていたロータリーバッヂをのぞき込んで、野村さんはロータリアンですか？と聞かれました。ビックリして、「そうだけどどうして？」と聞いたところ彼女は、私はロータリー財団の奨学生として、ドイツに留学させてもらい今の私があるのですと誇らしげに話してくれました。神戸ＲＣの所属だったそうです。私はロータリーの醍醐味、素晴らしさ、ダイナミックさを海外で、そして今日は皆様と国内で直に経験することが出来ます。ロータリアンを実感しています。

■幹事報告　石山幹事

■ガバナー事務所：
・第12回ロータリー日韓親善会議の案内の受理
2013年10月19日(土)～20日(日)
於　グランドハイアットソウル
登録締切8/16(金)　登録料￥22,000
＊参加希望の方は事務局まで願います

・「ロータリーの友」誌ご一読のお願いについて
ロータリー希望の風奨学金　現況報告について
「友」8月号に4ページにわたり掲載(東日本大震災義援金の件です)
＊「友」については8月第一例会にて配布予定

■東京東大和ロータリークラブ：
４ＲＣ親睦ゴルフコンペの案内の受理
2013年9月9日(月)
於　西武園ゴルフ場　　スタート　8:00
参加費　7,000円　　〆切　8月20日

■クラブ奉仕委員会：
国際ロータリー第2580地区会員増強セミナー開催の案内の受理
2013年9月20日(金)　15:00～
於　京王プラザホテル

■米山奨学委員会：
・地区米山奨学委員会と懇親会の案内について
2013年8月2日(金)　13:00～
於　ガバナー事務所

・ロータリー米山奨学生学友会2013年度ピクニックの案内の受理
2013年10月20日(日)　午前8:00
於　上野公園第1駐車場集合
行き先　筑波宇宙センター

■東村山市防衛協会：
定時総会・講演会・懇親会の案内の受理
2013年8月3日(土)　13:00～
於　三光寿司(栄町2-28-17)

■例会変更：
東京小平ＲＣ　8/14(水)→休会
8/24(土)通常例会→移動夜間例会　他

■出席報告　清水例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
30	24	0	5	82.76

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：4名
■前々回出席率メークアップ修正後：85.91％
■前々会メークアップ者：
中丸会員：理事会
清水会員：東京清瀬ＲＣ
漆原会員：朝霞ＲＣ
山宮会員：東京立川ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理委員

◆橋本ガバナー補佐、斉藤分区幹事：
本年度一年間よろしくお願い申し上げます。
◆守　重　様：いつも貴クラブから多勢メーキャップにおいで下さりありがとうございます。本日は広沢さんと一緒に参りました。
◆本　荘　様：過日は目時様に卓話をして頂きましてありがとうございました。また野澤さん、村越さんお二人にも例会にお越し頂き賑やかな例会となりました。今日はおじゃまいたします。よろしくお願い致します。
◆野村会長、石山幹事：
橋本ガバナー補佐、斉藤分区幹事ようこそお越し下さいました。1年間分区発展のために頑張って下さい。私達も頑張ります。東大和ＲＣ守重会員、地区委員のお勤めご苦労様です。本荘様、本日はご参加ありがとうございます。広沢君、卓話楽しみにしています。
◆野澤会員：多摩分区ガバナー補佐、同分区幹事、今年度の多摩の意気込みを大いに期待しています。本荘様、守重様ようこそ東村山へ。今日は手打ちうどんの日です。ラッキーかアンラッキーかはわかりませんが。。。
◆樺澤会員：橋本様、斉藤様、本荘様、守重様ようこそおいで下さいました。斉藤様、リスボ

ン世界大会ではお世話になり、また写真ありがとうございました。

◆當麻会員：ガバナー補佐橋本様、分区幹事斉藤様、1年間よろしくお願いします。東大和ＲＣの本荘様、守重様ようこそいらっしゃいました。

◆嶋田会員：橋本恵治分区ガバナー補佐、斉藤富美男分区幹事ようこそ。一年間大変な役目、ご苦労様です。頑張って下さい。本荘修さん、守重勝弘さんようこそ。一年間頑張って下さい。

◆中丸会員：本日は橋本ガバナー補佐、斉藤分区幹事ようこそおいで下さいました。一年間ご指導よろしくお願い致します。斉藤分区幹事、リスボンへの旅行で大変お世話になりました。ありがとうございました。東大和ＲＣ本荘様、守重様ようこそおいで下さいました。ごゆっくりしていって下さい。

◆田中会員：橋本様、斉藤様ようこそ東村山へ。ＲＣ発展のため頑張って下さい。本荘様、守重様ようこそ東村山へ。ありがとうございます。広沢様楽しみにしていました。今後のご活躍を期待しています。

◆小町会員：橋本ガバナー補佐、斉藤分区幹事、守重様ようこそおいで頂きました。同期の会長でありました斉藤様一年間頑張って下さい。

◆北久保会員：
ロータリークラブ入会3ヶ月、本日初めて司会を担当させて頂きます。不行届きのところが多いと思いますが、皆様よろしくお願い致します。

◆野村会長：写真ありがとうございました。

◆戸澤会員：13年前、交換留学生で当クラブで預かったオーストラリアのミッシェルからハガキが届きました。来年はオーストラリアのシドニーで世界大会です。来年は世界大会でミッシェルに会いたいものです。

本日のニコニコ合計：　49,000円
累　　計　：　280,200円

■ゲスト挨拶

■多摩分区ガバナー補佐
東京福生中央ＲＣ
橋本恵治様

この度、多摩分区ガバナー補佐を襲名しました福生中央の橋本と申します。1年間よろしくお願いします。

この会場に来まして、広沢くんを見まして守重さんも今日は来て頂きまして、昨年まで前期財団でその頃を振り返らせるような感じです。せっかく広沢くんがきてるので、その時の話をさせて頂きます。

2010年は通常の地区補助金、グローバル補助金として変更したのですね。2011年は例の震災で奨学金も補助金も一切なく、全部東日本に持って行ったのですね。12年に再度原点に元の形に戻ろうということになり、奨学生を募集して補助金も検討したのですね。12年の時の30名近い応募者の中で何せ点数をつけた中でダントツの1位でした。それが東村山さんから推薦いただいた奨学生でイギリスに行ったという思い出があります。4年間財団委員をやったのですが、その間東村山ＲＣは一番のクラブでして、財団卓話を2回も呼ばれまして、確かここに来た思い出があります。多摩分区の地区財団委員として私の四年間でやれたことを思いますと、福生中央さんが地区補助金を利用できたという、そして広沢くんを奨学生として送り出すことができたというこの2つが多摩分区からできたことじゃないかと思っております。

それも結びつけて、東村山ＲＣが第二回分区連絡会の会場になる野村会長にもお願いしてこの例会場を使わせていただいて、分区連絡会をやるのですが、全て世界の基準に合わせまして、地区補助金およびグローバル補助金の使い方を勉強しようと思いますので、そのときは約1時間かけて地区補助金グローバル補助金の勉強会を行います。9月が締め切りなので、それまでに応募しておかないと土俵に乗れませんので8月の第二回分区連絡会ではその勉強会をする予定で考えております。

私の後任として守重さんが地区補助金の委員として行って頂いております。

ロータリーというと財団というのは分かるような分からないようなものですが、何だかんだ言っても、皆さんから預かったお金をどう運用するかで動いてる部分でございまして、今回ガバナー補佐を任命されましても、わかりにくい財団がわかったことが良かったかなと、させられたという気持ちもあるのですがなったからには私の知識の糧として1年間頑張って参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

■多摩分区分区幹事
東京福生中央ＲＣ
斉藤富美男様

みなさんこんにちは。日頃は皆さんにお世話になっております。ありがとうございます。先般はリスボンの国際大会に夫婦で連れて行って頂きまして、その節はありがとうございました。心に残る思い出となりました。

この度分区幹事という大任を拝することになりましたが、何かと不慣れなことが多々あるかと思います。一つ皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

■委員長報告

■村越プログラム委員長

おしゃべりコンサートのご報告

台北市立介壽中学校弦楽団を歓迎して、7月19日に東大和市民会館ハミング大ホールにて東大和第一中学校の吹奏楽部との合同コンサートが行われました。

野澤秀夫会員の努力で東大和ロータリークラブの皆様がご協力下さり、盛大に行われました。東大和の副首長さんも市を代表してご挨拶して下さいました。台北市のロータリークラブからコンサート援助の依頼があり、それに応えることが出来ました。

始めに、東大和一中の吹奏楽の演奏があり、その後台北市立介壽中学校弦楽団約100名程での演奏があり、台北市と東大和市の交流になりました。台北市のロータリークラブからは東大和ロータリークラブに感謝状と記念品等が贈られました。

我が東村山ロータリークラブには、台北市立介壽中学校の校長さんから感謝状と記念品が贈られました。これを機会に台北市のロータリークラブとの交流が進むと思います。

■田中クラブ管理委員長
■田中ゴルフ部部長

こんにちは。クラブ管理から、今週の週報について北野さんよりファイリング用の穴空けを忘れてしまいましたとの事で、ご本人より丁寧に誤って欲しいと連絡を頂きました。どうぞお許し下さい。

今年度の家族親睦移動例会は8月24日(土)に西武園花火を楽しむことと致しました。例会運営及びクラブ管理一同、心を一つにしておもてなしと思っていますので、全員参加でお願い致します。

また、ゴルフ部よりご連絡です。４ＲＣ親睦ゴルフコンペを9月9日(月)に東大和ＲＣ主催で開催します。多摩分区親睦ゴルフ大会も福生中央ＲＣ主催で行われます。親睦を深めつつ、常勝東村山ＲＣは参加数でも一番、成績でも一番、皆で楽しんで美味いお酒を飲みましょう。回覧板を回しますのでご協力をお願いします。

■歩こう会幹事
野澤会員

第4回歩こう会のお知らせ

■日　時：9月7日(土)9:00～
■テーマ：多摩湖遊歩道を歩こう

詳細は後日お知らせいたします。また、雨天の場合でも実施いたします。よろしくお願いします。

■卓話

■卓話者紹介：野村会長

■地区補助金委員会委員
守重勝弘様

みなさんこんにちは。先ほど紹介ありましたが、本年度から地区補助金委員会というところに出向させて頂くことになりました。何となく感じておりましたけれども結構忙しいようでその上3年間やれということでありますので、何とかできなかなと思っていきたいと考えております。

今日は広沢さんが卓話をやるということで地区委員長から勉強に行ってこいということで、たぶん同じ感覚かと思います。まだ何もわかりませんで、3月ぐらいから招集がかかりまして月1回ぐらいの委員会でありましたけどれも、今度の分区連絡会にですね補助金の委員長がここにきてお話を1時間されるということであります。

皆さんと一緒に勉強させていただいて、今まではお金を出す方の立場でしたが、今度はお金を頂いて地域地域の中でのグループニーズに対応して人道的であり協力的でありましたり、もちろんそういう縛りはございますが、そういった中で皆さんから良い案を出して頂いてお金を頂けたら地域のためにグループのためになるような、そんな事業をやっていくお手伝いをするという立場ですので、よろしくお願いします。

どうもありがとうございました。

■Ｒ財団新地区補助金
奨学生：広沢智紀様

みなさん、こんにちは。先週も例会のほうにお伺いしましたが、もう一度自己紹介をさせていただきます。私はケンブリッジ大学の一年の広沢智紀と申します。

去年の10月から一年間、ロータリー財団の奨学生としてイギリスのケンブリッジ大学で勉強をしてきました。今日はその報告ということでお話をさせていただこうと思います。

まず最初に私のこれまでの経歴についてお話したいと思います。私は埼玉県の狭山市の出身で、小中学校は公立の学校に通っていました。海外に旅行をした経験もなく、その当時は自分が留学をするなどとは考えたこともありませんでした。転機となったのは中学校

を卒業し、浦和高校に進学したことだと思います。浦和高校は尚文昌武、つまり文武両道を目標に掲げており、進学校ではありますが部活動や行事にも積極的に取り組んでいました。男子校ならではの伝統的な行事が多くあり、体育祭では雨天決行ということで雨の中で体を張って棒倒しや騎馬戦などに参加し、古賀マラソンと呼ばれる強歩大会では全体の100位以内を目指して、友人たちと励ましあいながら50キロ完走しました。また硬式テニス部の一員として日々練習に励んでいましたが、その中で勉強も手を抜かずにこなし、成績は学年でも上位をキープすることができていました。このような生活を続けていく中で、自分に自信がついたためだと思います。入学した当初は自分には関わりのないことと考えていた留学プログラムに興味を持つようになり、校内の試験を突破してイギリスのホイットギフトという高校に2年間留学することができました。私がケンブリッジ大学へ入ることができたのは、浦和高校での日々と、まるで英会話のできなかった私を信じてイギリスへと押し出してくださった先生方のおかげであると本当に思います。

ホイットギフト校では2年間他の留学生とともに寮に暮らし、イギリスの生徒たちと同じ授業を受け、日本における高等学校の課程を修了しました。右も左も分からない状態で見知らぬ国に放り出されたようなものでしたので、最初は苦労しましたがそれに見合う価値があった留学だったと思います。イギリスでの留学の成果は英語を話せるようになったことだけでなく、異なる文化や考え方を持つ人々と話すことでより自分自身の考えや価値観を意識するようになり、それによって視野が広くなったと感じられたことだと思います。また、英語を話せることができるようになり、自分のこれからの可能性が大きく広がったということもあると思います。

ホイットギフト校を卒業し、私は一年間ギャップイヤーを取りました。卒業する年にアメリカの大学を受験してうまくいかなったことが直接の理由ですが、何よりも自分自身が進路の選択に迷っていたということがあると思います。イギリスの高校を卒業し海外の大学、特にイギリスの大学受験が強い現実味を帯びて目の前にあって、一方で浦和高校から卒業させてもらっていたので日本の大学に受験することもできました。その中で選択、決定しなければいけないことが多くあり、目の前のホイットギフト校での生活を優先して、それらの決断を後回しにしてしまった結果、ギャップイヤーを取ることになったのだと思います。だからでしょうか、アメリカの大学受験に失敗したときは悔しさもありましたが、それほど引きずることはありませんでした。ただもう一度現実的な選択肢を見直し、日本に帰って考え直そうと思いました。

ギャップイヤーとは日本でいう浪人と似ていますが、少し異なることがあります。受験勉強をする期間というより、大学に行く前に社会経験を積んでいくためのものという点です。その期間の間にどのようなことをするかは人それぞれ異なっています。私にとっては、イギリス留学を始めてから日本とは地理的にも文化的にも大きく離れた、ある意味「別世界」のような場所で初めての経験ばかりであったので、いったん落ち着いて進路についてじっくり考える時間としてギャップイヤーの一年間が必要だったのだと思います。

ギャップイヤーの一年間、宮城県にボランティアに行き、被災後のラッシュの中で自動車部品の倉庫や地元のスーパーマーケットで働いたりと、様々な社会経験を積むことができましたが、それとは別に空いてる時間を利用して、よく物理学や数学に関わる本を読んでいました。一般的な啓蒙書から大学で最初の一、二年で習う基本的な専門書など、手の届く範囲でいろいろと読んでいたと思います。それは受験の準備というだけでなく、今まで易しい内容のみを扱ってきた高校レベルからより専門的になる大学での勉強を、自分が本当に興味を持って取り組めるかを確認する必要があったからです。私は物理学の本を読みながら、自然界の法則が数学的にうまくまとめられた式に感心し、その式を見出すための工夫を理解すると、更にその先を学びたいと感じるようになりました。そうした経緯を通して今までぼんやりと意識していた物理学や数学への興味から、より本格的に研究者として関わってみたいと思うようになり、そのために自分の得られる最高の環境で学ぼうと決めました。目標が定まると、進路の問題もおのずと明らかになっていき、教育レベルと研究能力で世界的に名高いケンブリッジ大学に受験することにしました。イギリスの大学受験を躊躇する理由として経済的な問題もありましたが、数少ない奨学金に意を決して応募してみると幸運にもご支援いただけることになり、何とか入学することができました。ロータリーの皆様とこうして貴重なご縁をもつことができるようになったのもそのおかげでした。

さて前置きが長くなりましたが、ケンブリッジでの生活についてお話したいと思います。ケンブリッジ大学はその名の通りケンブリッジにあります。ケンブリッジと言われてもぴんと来ない方もいらっしゃると思うのですが、ケンブリッジはイングランドの東側にあって、ロンドンから電車で1時間ほど、私は大体バスを使いますが、その場合2時間くらいかかります。ロンドンからそれほど距離があるわけではありませんが、学期中は理由がない限りケンブリッジから出ることは少ないと思います。やはり学期中は勉強やスポーツ、サークル活動などで忙しいですし、必要なものは基本的にケンブリッジの町の中で手に入るためです。また、鉄道の駅が町の中心部からかなり離れているということも関係あるかもしれません。そのため、学期中は本当にケンブリッジの中だけで生活しているので、行動範囲はせいぜい2、3キロメートル四方程度に収まってしまいそうな気がします。

以前ケンブリッジを訪れた方ならおわかりだと思いますが、ケンブリッジの町自体はあまり大きくありません。その小さな町の中に30近くあるカレッジの建物が立ち並んでいます。このカレッジのシステムはあまりなじみのないもので説明するのが難しいです。ケンブリッジ大学というのは国立の大学ですが、大学自体はカレッジという各々が異なる財源を持つ私立大学の集まりという理解で大体正しいと思います。カレッジは学生たちに住むところを提供し、受験生の選考も独自に行い、大学に報告する形となっています。それに対し、大学側はそれぞれの学科の設備をつかって、全てのカレッジの生徒たちに講義を行い、実験や実習をする環境を提供します。学生は大学が実施するトライポスという試験を受けることが義務付けられ、その結果が大学での成績の大部分を決めることになります。ケンブリッジでの教育は、カレッジと学科がそれぞれの役割を果たすことによってなされるということになります。私が所属するモードリンカレッジは比較的古く小さなカレッジで、どちらかといえば保守的なカレッジとして知られています。ケム川沿いに位置していて、モードリンカレッジの内側からケム川でボート遊びを楽しむ人々の姿を眺めることができます。他にニュートンやマックスウェルなどを輩出し、最も裕福であるトリニティカレッジや、堂々とそびえるチャペルで有名なキングスカレッジ、セントジョーンズカレッジな

ど様々なカレッジがあり、それぞれが異なる魅力を持っています。こうしたシステムがあるため、同じケンブリッジ大学で勉強していたといっても、異なるカレッジの人はある意味別の大学で勉強しているようなものかもしれません。

ケンブリッジ大学は13世紀始めにオックスフォードから逃れてきた学者たちによって始まったとされ、古い町であるためか町の中心部では狭い道が多く、車を乗るのにはあまり便利ではありません。そのため、主な交通手段は自転車になります。学生もほとんどの人が徒歩か自転車で通学しています。ケンブリッジの朝の自転車ラッシュはものすごいのものがあって、朝の講義が始まるすぐ前の時間は自転車を漕いでいく学生たちのせいで、通りを渡ることがなかなかできないほどです。

私も毎朝9時からの講義のために自転車で通っていました。私の専攻しているNatural Sciences、つまり自然科学学部では、毎週12時間、各教科3時間ずつの計4教科の講義を受けていました。私は必修の数学に加え、物理学、物質科学、そして情報科学に関して学びました。どの教科においても講師の先生は、学生たちが飽きることのないように工夫していて、ペースは早いものの実験の実演や、今自分たちが学んでいることが現実の問題にどのように利用されているか、ということを示してみせてくれて、ためになった授業が多く感じられました。

印象に残っているものの例を一つ挙げると、フーリエ変換についての数学の講義で面白い実演がありました。フーリエ変換とは、ある周期で繰り返されるパターンがどういった形であれ、そのパターンを波の重ね合わせによって近似できるというものです。その実演では、生徒の一人にラッパを吹いてもらい、その音を解析してパソコンで再現しようとしました。私達がイヤホンを通して聞いている音楽は、こうして解析された元の音声を近似的に再現したものだと感心した覚えがあります。また、ユニークな方法ですが、物質科学の授業では学生が発言するたびに、その人にチョコレートをあげるというやり方をしている講師の方がいました。他愛のないことのようですが、その先生の授業のときは、多くの学生が積極的に手を上げ、授業に参加していました。私自身も何度か手を上げてみましたが、指されることがなく残念ながらチョコレートはもらえませんでした。しかし、この先生の授業は雰囲気が良く、楽しいものだったと思います。

ケンブリッジ大学では、講義を受けた学生がその講師を評価する仕組みとなっていて、一つの単元ごとにアンケートを取って、来年度の授業内容を改善するために生かしていく取り組みをしています。また、教科ごとに学生の代表を決め、教授たちが行う会議に出席してもらい、生徒たちから出た不満や改善点などについて、直接伝える機会を持つことができます。ケンブリッジ大学は非常に古い大学ですが、学生の要望に応じて授業の質を高める努力を怠らない点は、この大学の教育水準が世界トップレベルにあり続けることができる理由のひとつではないかと思います。

私の学部では学期中は時間割が変わることはなく、いつも同じサイクルになっていました。午前中に講義、午後から実験や実習などがあり、あるいは実験がない日はスーパービジョンと呼ばれる一対三程度の少人数の授業がある場合もあります。物理学、物質科学では実験があり、情報科学では実際にプログラミングを行う実習を毎週やりました。私は大学に入るまで全くプログラミングの経験がなく、はじめから終わりまで苦労しましたが、2学期の終わりにはjavaを使って簡単なゲームをつくることができました。今までゲームやパソコンが内部でどのように動いているか、不思議に思っていましたが、この一年で大まかなことが理解できたと思います。情報科学で学んだことはパソコンやインターネットなど、ある意味ではもっとも身近なものについてだったので、得意科目というわけではありませんでしたが、とても面白く学ぶことができました。

日本やアメリカの大学では最初の一、二年は一般教養を学ぶことが多いと思いますが、イギリスの大学では一つの教科を重点的に学ぶことが一般的です。そのため、イギリスの大学の学部課程は短く、三年間で卒業することができます。しかし、私が選んだコースでは一年目にいくつかの科目を取らなければならず、徐々に専門性を上げていくという少し変わった構成になっています。私はもともと物理学を学びたいと考えていたので、志望校を決める際にケンブリッジではその他の科目に手間を取られて、肝心の物理学を学ぶ時間がなくなってしまうのではないかと思い、迷うこともありました。しかしながら一年間を終えて振り返って見ると、どの教科においても自分の今まで知らなかった多くのことを学ぶことができ、飽きることはありませんでした。そうした知識は、これから自分がどのような方向に進むにせよ、更に多くのものを上に積み重ねていくことができる土台となってくれると思います。また、異なる教科を学ぶことで、最終的に自分がどの分野に向いているかを見極める助けにもなると思うので、単純に物理学だけを一年目から学ぶよりもかえって良かったと思います。

そうした面で良い事も多くありますが、一つ一つの教科においても他の大学に負けないようにきちんと学ぶことを求められるため、学生たちの負担もかなり大きくなります。いくら優秀な学生が多いといっても、そのままでは授業に置いていかれてしまう生徒も出てきてしまいます。そうしたことを防ぐため、ケンブリッジ大学ではスーパービジョンという個別授業も同時進行で行っています。これは学生の所属するカレッジが各自、指導教官を手配してくれます。私も毎週各教科一時間ずつ、計4時間のスーパービジョンを受けていました。それぞれコースによってやり方は異なりますが、私の学部ではスーパービジョンで重点的に問題を解く方法を学びました。授業によって理解した内容の確認から、更に進んだ内容まで踏み込みます。各授業の前に課題をこなし、授業の中でその課題の内容の確認をします。スーパービジョンの中で、分からないことは解決することで講義の内容をより深く理解することができるようになります。

また、問題をどのように解くかというやり方まで教官の先生に見てもらえるため、面白い解き方などを思いついたときには、先生から評価してもらえることもモチベーションの維持につながったと思います。数学では特に解き方にかなり自由が利くので、毎回良い考えが思いついたときには先生がどのように思うだろうかと、楽しみにしていました。物理学の先生はかなり年配の方でしたが、彼の父親はノーベル物理学賞を受賞されていて、そのお父さんから習った物理の考え方をいつも目をきらきらさせて教えてくれました。受賞理由は確か粒子加速器を開発して、原子を初めて更に小さな構成要素に分解することに成功したことだったと思います。以前ケンブリッジ大学はノーベル賞の受賞者数が世界一だと聞いたことがありましたが、その事実を改めて実感しました。その先生は授業中に実際に実験をしようと言って、身の回りのものを使って簡単にできる実験をよくやってみせてくれましたが、そのたびに子供のようにはしゃいでいた姿が印象に残っ

ています。本当に物理学が好きなのだと思いましたし、一生自分の好きなものに関わる仕事をしている先生のようになれたら素晴らしいだろうと感じました。

このスーパービジョンで出される課題の量はかなりのもので、4～5時間くらいかかる分量であったと思います。そのため、勉強時間の多くはこのスーパービジョンの課題をこなすことに費やされます。毎週課題の期限に追われながら、空いた時間には友達と出かけたり、サークルやカレッジのイベント、あるいはスポーツに参加したりと、ケンブリッジでの時間はあっという間に過ぎていきます。過ごした時間の密度は濃く、最初の学期の3週目にはもうずっとケンブリッジにいるような気がしていたほどでした。私は少年サッカーチームに入っていたこともあるので、カレッジのサッカーチームでプレイしていました。週末には試合があり、他のチームのみんなと一緒にボールを追う時間は良い息抜きとなりました。また、試合がない週は友達とジョギングをしたり、テニスをした後で夕食を一緒に取ったりと、週末は楽しく過ごしていました。私は基本的には自炊が多いのですが、同じように自炊が多い友人と互いに料理をつくり合ったりすることもありました。そうした際には、簡単なものですが日本の料理をつくって反応を見てみるのも面白い経験でした。

大学内のサークルは日本とは少しイメージが違いますが、そのメンバーになることでそのサークルの主催するイベントに安く参加することができるというものが多くあります。私は物理学と数学のクラブのメンバーになって、毎週のように研究者の方のお話を聞きに行っていました。大抵夜の7時くらいから一時間から二時間ほどの講演で、講演のあとには飲み物やお菓子が出て、話の内容を友達と話したり、講演者の方に質問をすることができました。最新鋭の科学技術を開発している人や、超ひも理論という大変難しい理論の研究をしている物理学者の人など、自分たちが今学んでいることを突き詰めた先に何が待っているのか、それに直面している研究者の方々のお話はとても面白く、参考になりました。

また、日本人の研究者の方とお話をする機会もありました。ケンブリッジで学部に所属している日本人の数はかなり少なく、おそらく全体でも20人程度であると思うのですが、研究者の方はたくさんおられて、私も日本人会を通して様々な分野の勉強をしている方とお話しすることができました。その中で印象に残っていることは、日本で物理学の博士号を中退し、ケンブリッジで博士号を取得した方から伺ったことなのですが、日本の大学の研究室はどちらかと言えば閉鎖的な風潮があって、研究自体の効率が悪くなってしまっていると聞きました。それがどの程度正しいのかはわかりませんが、私がケンブリッジで学ぶ中で感じたことは様々な分野の専門家の方のお話を伺うのは面白いだけでなく、今まで考えたことのなかったアイデアが思いつくきっかけにもなるということでした。研究活動のように創造性が求められる仕事では、そうした異なる知識を持つ方との交流はより一層重要なのではないかと思えます。私自身、研究者になることを志しているので、より開かれた研究者のあり方というものを考えていくことも、これからの一つの課題としていきたいと思います。

研究者同士の交流だけでなく、研究者と一般の方との距離もケンブリッジでは近く、科学者による啓蒙活動が盛んであるように感じました。ケンブリッジでは毎年三月にサイエンスフェアというものが行われますが、実に多くの科学体験教室が開かれ、多くの講演がなされます。私もその中で一つ講演を聴きに行きましたが、会場にはたくさんの方が来ていて、満席状態になっていることにとても驚きました。その講演の内容は素粒子論の話だったのですが、難しいところもユーモアを交えながら説明をし、会場の人は楽しそうに話を聞いていました。いくつかの講演を聞いて感じたことですが、講演者の方は一般の方にも楽しめるようなスピーチを行う技術に優れているように思いました。こうした講演はインターネットで予約するだけで無料で聞くことができるので、気軽に参加することができ、大人から子供まで広い年代の方が参加していました。研究活動にいそしむだけでなく、いかに一般の方々に科学を楽しみながら学んでもらえるか、あるいは自分が研究している内容の面白さを伝えることができるか、という点も研究者にとっては大事な能力なのではないかと思いました。日本ではあまり科学者の方から直接お話を伺う機会は少ないですが、一番その研究の面白さが分かっている研究者の方がそれを直接伝える機会がもっと増えていけば良いのではないかと思います。たとえば、ケンブリッジ大学の物理クラブや数学クラブで主宰される講演は学生だけでなく一般の方も聞くことができ、質疑応答の際に積極的に発言している方もたくさんいました。科学に関する知識は人類の共有財産であって、科学技術の便利さを提供するだけではなく、知的好奇心を刺激して新たなことを理解する楽しみを提供することもできるはずだと思います。

最後に今後の抱負についてお話してこの報告のまとめとさせて頂きたいと思います。先月の6月で一年次の試験も終わり、10月にケンブリッジに戻る際には2年となります。昨年度は先ほどもお話した通り4つの教科を広く学んでいましたが、来年度からは物理学と数学に絞り、より専門的な勉強をしていくことになると思います。そのためいよいよ自分が本当に研究職に向いているかどうか、もし研究職を目指すのであればどういった分野の研究をしていきたいか、考え始める時期になってくると思います。また、可能であれば長期の休みなどを利用して、日本の研究室などにお願いをして、実際の研究活動とはどのようなものか、下働きのような形で経験させていただくことができたらと思っています。

ロータリーに関する活動としては、なかなか例会などに参加する機会が見つからずにいましたが、イギリスから帰国する少し前に、ガバナークラブの事務所の方からロンドンのロータリークラブにおられる廣綱様という方を紹介していただきました。一度お会いすることができましたが、ケンブリッジのロータリー会員の方に紹介してくださるとおっしゃってくださったので、来年度以降機会があれば例会などを通してイギリスにおけるロータリーのつながりをつくっていきたいと考えております。

最後になりますが、私はあまりスピーチをすることは得意ではなく、長々と退屈に感じた方もおられたかもしれませんが、貴重な時間を割いて私の話をお聞きくださりありがとうございました。まだまだ研究者になるという夢は前途多難ですが、いつかまたこのように皆様の前で、自分自身の研究や物理学についてなど、面白いお話をすることができるように、これからも精一杯努力していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

■閉会点鐘：野村会長